

2021 年度 事業報告書

2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会

I 2021 年度事業実施の方針（2021 年度事業計画より）

新型コロナウイルス感染拡大が始まって1年が経過しました。人の動きが制限され、人・もの・お金の流れが大きく変わりました。医療現場では、コロナ感染により入院ベッドが逼迫し、入院を希望しても入院できずに自宅待機のまま亡くなる報告がありました。これは、人口減少時代にあって看取り難民が予想される近未来を先取りした社会課題の1つと考えます。やがてコロナ感染は終息していくことでしょう。しかし、超高齢少子多死時代において、社会保障の脆弱化は、ますます大きな社会課題となります。

エンドオブライフ・ケア協会が大切にしてきた取り組みは、人生の最終段階の人が抱えるような不条理で理不尽な思いで苦しんでいる人への援助です。人は、たとえいのちが限られる苦しみを抱えたとしても、穏やかな時間を過ごし、他の人に優しくなることができます。その関わり方を、一部のエキスパートだけではなく、皆がわかる言葉で伝え、具体的に行動できるようになるための活動を大切にしてきました。

格差が広がる社会にあって、社会的孤立で苦しむ人は増えていきます。誰一人取り残されない社会を実現するためには、地域で苦しむ人に気づき、行動できる担い手が必要です。そのマインドは、高度経済成長が期待し難い社会において、国民一人ひとりが Well-being（実感としての豊かさ）を感じられる社会の実現に向けた活動の基盤となると考えます。活動を開始して7年目を迎え、2021 年度がその輪を着実に広げる1年となりますよう、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

代表理事 小澤 竹俊

II 2021 年度の成果

1. 各事業について

(1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成

期初計画
◇ 超高齢少子化多死時代に備え、看取りを含めた解決困難な苦しみに対応できる人材を育成することを目的として、2015 年 7 月から「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」（以降、養成講座）を開催してきた。2020 年 2 月下旬、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されるなか、感染拡大防止の観点から、当面、養成講座をはじめ、主催するイベントの対面開催を中止し、以降オンラインに切り替えて開催を続けている。
◇ 2021 年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、基本的には、主催する研修・イベント等はオンライン開催を計画する。2021 年度後半、感染状況を見ながら対面による集合研修を検討する。
◇ 養成講座のオンライン開催については、土日午後 2 回、平日夜 4 回、に加えて、平日昼 2 回も、引き合いに基づき開催する。
◇ 各地域や職能団体主催によるインハウス研修、依頼講演等については、現地の感染状況に基づき主催者の判断も踏まえ、開催判断や形態を協議する。

実現したこと（詳細は、P9 参照）

- ◇ 養成講座は当初計画より多く、2021年3月までに合計21回開催し、370名の参加があった。企業内インハウス（SOMPO ケア様）や施設向け平日昼開催など、ニーズに合わせた新たな開催形態で提供することができた。
- ◇ オンライン開催により、講師も参加者もファシリテーターも移動を伴わないため、これまで参加が難しかった対象者、たとえば離島に住む医師や、小さな子を持つ看護師、親の介護にあたる会社員など、参加がしやすくなったという声が今年度も複数あった。
- ◇ 養成講座の開催にあたっては、今年度も全国の認定 ELC ファシリテーターと綿密に連携を図った。小グループに分かれてのロールプレイや事例検討等を進行する役割を担っていただきながら、参加者の学びを支援いただいている。これは、ファシリテーター自身のスキルアップの機会にもなっていることが、本人たちの実感からのコメントとして、また、外部研修でのふるまいを第三者に評価いただくなかで、明らかになっている。対面での研修再開には至らなかったが、その布石として運営体制の準備が整った。

課題

- ◇ 医療介護業界の研修参加がコロナ禍で依然難しい状況にある。各所でオンラインでの会議や研修が増えるに従い、オンラインへのハードルは当初より下がっていることが感じられるが、研修受講への機運は十分に高まってはいないと考えられる。週末2日間や平日夜間も参加が難しい、あるいは、オンラインでの受講が依然難しい声も伺う。eラーニングの事前学習との組み合わせで、次年度は1日版を開発し提供する。
- ◇ 活動が広がるに連れて情報が複雑化し、必要な人が必要な情報に手早くたどり着けていないことが、ホームページのアクセス解析や直接のお問い合わせからも伺える。養成講座等の申し込みへの動線とシステムの改善を検討する。
- ◇ 課題や講座の認知度とアクセシビリティが低い。強みの言語化と業界内外への発信を強化する。

（2）職種や世代を超えて学び、実践するためのコミュニティを支援する活動

期初計画

- ◇ 各地の認定 ELC ファシリテーターや「折れない心を育てる いのちの授業」認定講師が、それぞれのコミュニティでオンラインを含めて継続的に活動できるように、個別の相談も含めて支援する。
- ◇ 主催する講座やイベントでの活動を通して、認定 ELC ファシリテーターがスキルアップする機会をつくることに加え、IT ツールの活用やファシリテーション等について、学び合いの機会を認定 ELC ファシリテーター主導で行えるよう支援する。

実現したこと

- ◇ 養成講座を受講した後、一定の要件を満たし、それぞれの地域で学習会を開催できるとして認定された ELC ファシリテーターは19名と、昨年度の29名より少なかったが、認定 ELC ファシリテーターによる学習会（「折れない心を育てる いのちの授業」および、主催イベントや外部講演会を除く）へ

の参加者は 3,340 名となり、昨年度の 2,265 名から大幅に増加した。

- ◇ 継続して開催してきたオンラインでの養成講座やイベント等が、ファシリテーターのスキルアップにつながり、個人のモチベーションアップに留まらずコミュニティ強化にもなっていることが伺える。
- ◇ 53 か所目の学習会コミュニティが新たに誕生した（ELC 千葉船橋）。
- ◇ アドバイザー本間正人先生にご協力いただき、ファシリテーター対象の講座を開催できた。こうしたきっかけをもとに小グループでのファシリテーションに挑戦するファシリテーターが増えた。

課題

- ◇ IT やオンラインへの苦手意識、ファシリテーションそのものへの自信については、経験を積んでいく中で培われていく要素も大きいため、引き続き、養成講座やイベントへの参加を呼び掛ける。
- ◇ オンラインを機に疎遠になっているファシリテーターや、一方で、きっかけをもとに参加して下さるファシリテーターがいるため、個々の状況に応じて案内していく。
- ◇ エンドオブライフ・ケア協会を分母とせず、地域には様々な困りごとや、すでに活動している人たちがいるなかで、目指すゴールを共有しながら、地域福祉の視点で連携していく。

（3）地域コミュニティのレジリエンス強化「折れない心を育てる いのちの授業」

期初計画

- ◇ ホスピスや在宅医療の現場から学んできた、「答えのない、自分や他者のこころの問題との向き合い方」を、今を生きる子どもたちへ届けるために、2000 年から代表理事が 1 人で始めた学校への出前授業「いのちの授業」。2019 年から本格的に講師育成を開始し、現在は、オンラインのみで、講師トレーニングから認定後の継続学習まで行い、全国から参加が可能となっている。
- ◇ 昨年度に引き続き、講師を育成し、各自が対面ないしオンラインで授業が実施できるよう推進する。講師トレーニングはオンラインで年間 4 回開催。3 か月ごとのサイクルで、受講・評価・認定プロセスを運用する。
- ◇ また、認定後、講師が自信を持ってオンラインなどで授業を実施できるようになったり、学校等の場へ授業実施を提案に伺えるようになったりすることを目指し、認定講師がお互いの経験から学び合える学習会を毎月開催する。その企画・運営も、認定講師が主体となっていく。認定講師が活躍できる場を増やしていくべく、当協会からも各所へ働きかけていく。
- ◇ なお、持続的な運用に向けては、教材の拡充、プロモーションも重要であると考えたとき、今後は財源確保が大きな課題となる。寄付、助成、企業連携等の可能性を検討する。

実現したこと

- ◇ コロナ禍で大人だけでなく子どもも苦しい思いをしていたり、自他を傷つける言動が報告されていたりするなか、大阪市教育委員会と連携し、今年度も市内小中学校から依頼を受けて出前授業を多数実施した。前半は感染の影響を受けて停滞したが、後半は時期的に学校の判断でオンライン授業を実施。全国の講師が多数参加する契機となった。1 月に依頼を受けて 2 か月間のうちに報告まで完了することができたのは、この 1 年間で認定講師が増え、オンラインでの実施を含めて、経験を積んでき

たからこそと考える。大阪市小中学校では、今年度オンラインでの実施が21クラスあり、地域を超えて、遠方の認定講師が授業を行うことも可能となった。

- ◇ 認定講師による授業に参加した方の数は、全国 8,076 名で、昨年度の 5,852 名から大きく増加している。
- ◇ 新たに講師が 51 名認定となった（昨年度 39 名）。最年少講師は中学 2 年生 14 歳で、同時期に認定された母親の姿を見てのことだった。自ら講師になることで、友達との関わりに活かしたいと考えたとのこと。十代の挑戦者が増えており、周囲が刺激を受けている。
- ◇ 毎月 15 日に講師同士の学び合いの会を有志の認定講師主催で継続開催し、少しずつプレゼンテーションの練習、フィードバックと、テーマに基づく対話を繰り返してきたことで、いざ声がかかったときに挑戦する人が増えた。
- ◇ また、認定講師が独自の繋がりをもとに、特定地域で広がりを見せている（沖縄市、鹿児島市、唐津市、ほか）。学校に限らず、地域コミュニティの様々な場所、たとえば、子ども食堂、病院、寺院、学童保育などでも、感染症に配慮しながら対面やオンラインでの授業実施について報告があった。

課題

- ◇ 実績をもとにした他地域への横展開
オンラインを含めて、認定講師がそれぞれの地域で活動できるように、Facebook グループや月 1 回の学習会などで、活動の場づくりに関わる情報交換を行っていく。
- ◇ 経験を重ねフィードバックし合える仕組み
- ◇ 教材の拡張、学校案件のコーディネート、プロモーション等に関わる財源の獲得

（４）社会課題と活動への関心を育む取り組み

期初計画

- ◇ 2021 年度も、学会・研究会等における教育講演、ポスター発表等を通じて活動成果を可視化していく
- ◇ 第三者による養成講座教育効果検証に引き続き協力していく。

実現したこと

- ◇ 論文
 - H. Nagano, K. Chida and T. Ozawa (2022). *Can We Be at Peace With Unsolvable Suffering? A Qualitative Study Exploring the Effectiveness of Supportive Communication and Resilience Building*, Journal of Hospice & Palliative Nursing. 24(3):E76-E82.
 - 小澤 竹俊. 糖尿病患者や家族の語りを大切にその人らしさを支えるケア 不条理な苦しみと向き合うこと～あなたが人生をあきらめても、人生はあなたをあきらめてはいない～日本糖尿病教育・看護学会誌 25 巻 1 号, 2021, p. 61-65.
- ◇ 学会発表
 - 小澤 竹俊. 自尊感情・自己肯定感を育てる関わり, 日本小児看護学会第 31 回学術大会, シンポジウム: 子どもの“生きる”を支えるケア～新しい発想でのコラボレーション～, 2021 年 6 月.

- 小澤 竹俊. 苦しみのない人生はないが、幸せはすぐ隣にある, 第28回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 熊本, 2021年10月17日.
- 小澤 竹俊. 真の援助者を目指して, 日本死の臨床研究会年次大会, 企画委員会企画シンポジウム, 2021年12月5日.
- 久保田 千代美. 平日の夜に行うオンライン講座について～エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座の新たな取り組み～, 第26回日本緩和医療学会学術大会, 2021年6月.
- 久保田 千代美. なぜ、忙しい業務の合間にファシリテーターとして協力するのか～オンラインによる多職種連携教育の可能性～, 日本エンド・オブ・ライフケア学会 第4回学術集会, 2021年9月.
- 久保田 千代美. 地域に暮らす医療的ケア児と行う『折れない心を育てるいのちの授業』, 第3回日本在宅医療連合学会, 2021年11月.
- 久保田 千代美. 尊厳を高める援助的コミュニケーション～ディグニティセラピーのワークショップからの知見～, 第45回日本死の臨床研究会年次大会, 2021年11月.

◇ 研究

- 終末期患者が抱く他者への負担感軽減に向けた援助的コミュニケーション教育の検証
養成講座の教育効果検証に関わる研究が、千葉宏毅氏（北里大学医学部医学教育研究部門助教）を中心に2018年から行われており、当協会として本年度も協力している。

◇ 出版

- 小澤 竹俊. もしあと1年で人生が終わるとしたら?, アスコム, 2022.

◇ メディア出演・掲載（一部）

当協会理事に限らず、認定 ELC ファシリテーター/折れない心を育てる いのちの授業認定講師が、それぞれの地域における活動を新聞、雑誌等に取材いただいたり、テレビ、ラジオ等のメディアに出演したりしたという報告が複数寄せられた。

- おはよう 45th パーソナリティ 道上洋三です. ABC ラジオ. 2021-07-09.
- う～サンバ!. いこらじお. 2021-08-16.
- FUTURESCAPE. FM ヨコハマ. 2021-10-23.
- カズレーザと学ぶ。 . 日本テレビ系. 2021-10-08.
- 大波小波 「いのちの音」体感. 南日本新聞. 2021-06-15.
- 今を語る 多死社会 地域で支えあう. 読売新聞. 2021-09-28.
- 「苦しみの解決」に学ぶ 北谷ハンズオン「いのちの学校」. 琉球新報. 2022-03-27
- (はじまりを歩く)ホスピス 浜松市・大阪市 人を人が支え、弱者に優しく. 朝日新聞 be. 2021-12-11.
- 人の支えの大切さ 大岬小 全校児童が考える. 日刊宗谷. 2022-03-13.
- 銀行員→ソーシャルセクターで活躍するフリーランス→経営者に。大西純さんに聞く、50代からのキャリア。『DRIVE』by ETIC. 2022-03-29.

◇ キャンペーン

JAMMIN 合同会社との二度目の1週間コラボキャンペーンを実施。チャリティ額は、当初目標150,000円から上方修正した目標額300,000円を上回り、388,490円となった。

課題

- ◇ 「子ども」「地域」領域における研究のテーマ設定、ならびに相談先、予算の獲得

(5) 現役世代 / 将来世代の「もしも」に備える

期初計画

- ◇ 職種を問わず、対人援助に関心のある方であればどなたでも参加できる機会として、問いをベースにした対話型オンラインイベント「新型コロナ・ショックに備えて最強のチームをつくろう」を今年度も毎月第三火曜日に開催していく。これまで、代表理事が経営するめぐみ在宅クリニックが、地域の援助職を対象とした「地域緩和ケア研究会」として累計 100 回以上開催してきたものを、オンライン化してどなたでも参加可能とした。
- ◇ また、将来世代が活動に関心を示し、若手と経験者が相互の取り組みから学べる機会を大切にしたいと考え、交流イベントを開催する。これにあたり、学生団体等とも引き続き連携する。
- ◇ 家族介護のために仕事を辞める人が年間 10 万人と言われるなか、介護から看取り、グリーフケアを含め、働く世代の支援ニーズが増加していることに鑑み、今後も関連団体と協働していく。

実現したこと

- ◇ 最強チームイベントシリーズでは、問いをもとに対話するコミュニティとして、定期的に参加する人が増えた。一方で、はじめての方も医療介護従事者に限らず参加いただき、特に認定 ELC ファシリテーターの場づくりにより、安心して参加できた、他の人が話すことを聴くうちに想いが沸き上がってきた、などの声を多くいただいている。
- ◇ また、専門職種としてこれから現場の一翼を担う学生への教育を重要な活動の一つと捉え、医学部教育（卒前・卒後教育）における対人援助のプログラムとして、2020 年度には、以下 6 つの医学部で講義を行った。長崎大学医学部、愛媛大学医学部、愛知医科大学、昭和大学医学部、東京医科大学医学部、北里大学医学部

課題

- ◇ 新たな関係者との連携
- ◇ 医学教育（卒前・卒後教育）への関わり

(6) 在宅看取り向上のための体制づくり～地域全体がつながり、人生の最期まで心豊かに暮らせる地域づくり：地域福祉・医療介護が共通言語をもって連携しコミュニティのレジリエンスを強めるには～【日本財団助成事業】

期初計画

- ◇ 唐津市と米子市において、「在宅看取り向上のための体制づくり～人生の最期まで心豊かに暮らせる地域づくり～」を目的として、日本財団からの助成をもとに事業を行う。

実現したこと

- ◇ 日本財団助成事業では、唐津市と米子市において、関係者へのヒアリングとアンケート調査を踏まえ、介護施設従業員向け看取りに関わる研修のほか、地域福祉や防災と連携した関係人口のすそ野を広げる取り組みを行い、来年度の方向性が明確になった。(事業報告書)

課題

- ◇ 今年度、コロナ禍において医療現場での逼迫した状況から、実際に集まった研修や意見交換といったことを実施することは困難を極めた。そのため、事業1における「在宅看取りを支える協力医師体制づくり」等は、次年度以降、引き続き、個別に働きかけていきたい。
- ◇ そのほか、現在の核家族化や地域とのつながりの薄さが、高齢者の孤立を生むことも知られており、コミュニティのつながりといったソーシャルキャピタルを強化することにより、誰もが誰かに迷惑をかけてもよいと思える、助け合える社会につながるという可能性が考えられる。そのため、今年度で実施した看取りに関する調査をさらに深め、ソーシャルキャピタルと在宅看取りの関係性について引き続き調査が必要。
- ◇ 事業4で実施した施設アンケートにより、看取りやACPに関する研修のニーズが非常に高いことが明らかとなったため、希望する施設にヒアリングの上、研修を提案していく。
- ◇ 唐津市に関しては、来年度も継続して事業を行っていくことから、今年度に構築した唐津市防災課を中心とした市民や医療福祉関係者との連携をさらに深め、対話を継続して情報交換および共同のプロジェクトなどを行っていく予定である。(助成事業外)
- ◇ 米子市に関しては、次年度、助成事業としては対象外となるが、本事業で繋がった関係者、社会福祉協議会、鳥取大学等との関係性を発展させて当協会の事業として継続していく。

2. 法人運営について

(1) 組織体制の変更

理事会を年4回に増やし、開催月以外は簡易な活動報告の場とすることで、理事間で現状の課題と方向性のすり合わせを行うことができた。

(2) データベース等システムの刷新

会員ならびに利用者の増加、提供サービスの多様化に伴い、システムの処理が複雑化しており、これを刷新すべく、現状の業務フローとあるべき姿、必要な機能を整理した。

また、イベントの申し込みに使用していた外部申込システムを、管理コストに鑑みて、自前のシステムと情報および課金の流れを統合すべく、改修を行った。

問い合わせの増加とこれに対応する稼働の増加については、コンタクトセンター機能のあるソフトウェア（メールワイズ）を導入した上でオペレーションの改善を図った。

（3）グッドガバナンス認証の取得

非営利組織として必要な運営基準に則り、持続可能な法人運営を行うために、第三者認証として一般財団法人 非営利組織評価センター（JCNE）による、グッドガバナンス認証を取得した。

III 事業の実施状況

事業名/活動内容		実施日	実施場所	人数 (人)
(1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成				
「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」	公開講座（土日）	2021/4/24-25	オンライン	23
		2021/5/22-23		17
		2021/6/12-13		15
		2021/7/24-25		19
		2021/8/28-29		18
		2021/9/25-26		15
		2021/10/30-31		12
		2021/11/13-14		14
		2021/12/18-19		29
		2022/1/29-30		9
		2022/2/19-20		14
		2022/3/12-13		17
	公開講座（平日昼）	2021/5/12.19		4
	公開講座（平日夜）	2021/5/26.06.02.9.16		7
		2021/7/29.08.05.12.1		7
		2021/9/8.15.22.29		6
2021/11/4.11.18.25			11	
2022/1/19.02.02.09			7	
インハウス開催：沖縄	2021/8/7-8		44	
インハウス開催：SOMPO ケア様	2021/12/11-12		45	
インハウス開催：愛媛	2022/3/26-27		37	
「認定エンドオブライフ・ケア援助士」の認定	通年	-	96	

(2) 職種や世代を超えて学び、実践するためのコミュニティを支援する活動				
「認定 ELC ファシリテーター」の認定		通年	-	19
地域学習会	認定 ELC ファシリテーターによる各地での学習会。「折れない心を育てる いのちの授業」および、主催イベントや外部講演会を除く	通年	オンライン/ 各地域	3,340
(3) 地域コミュニティのレジリエンス強化～「折れない心を育てる いのちの授業」～				
講師の育成	講師トレーニング	2021/4/4	オンライン	62
		2021/7/18		29
		2021/10/10		14
		2022/1/16		26
講師の認定		年 4 回		51
講師の継続学習	認定講師同士のオンラインでの学び合い	年 12 回		299
認定講師による各地での授業	認定講師による各地での授業	通年	オンライン/ 各地域	8,076
(4) 社会課題と活動への関心を育む取り組み				
論文	H. Nagano, K. Chida and T. Ozawa (2022). Can We Be at Peace With Unsolvable Suffering? A Qualitative Study Exploring the Effectiveness of Supportive Communication and Resilience Building, Journal of Hospice & Palliative Nursing, 24(3):E76-E82. ほか	2022 年 3 月	-	-
学会発表	久保田 千代美. 平日の夜に行うオンライン講座について～エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座の新たな取り組み～, 第 26 回日本緩和医療学会学術大会, 2021 年 6 月. ほか	2021 年 6 月	-	-
研究	終末期患者が抱く他者への負担感軽減に向けた援助的コミュニケーション教育の検証	2021 年	-	-
出版	もしあと 1 年で人生が終わるとしたら?, アスコム	2021 年 3 月	-	-
メディア出演	FUTURESCAPE, FM ヨコハマ ほか	2021/10/23	-	-
メディア掲載	朝日新聞 be ほか	2021/12/11	-	-
(5) 現役世代 / 将来世代の「もしも」に備える				
設立 6 周年シンポジウム	課題解決先進国として、未来の夢をデザインする～人口減少時代に、あなたは何かができますか?～ (6 周年)	2021/4/17	オンライン	269
学生とのネットワーキング	医療・福祉系学生への授業、クラブ活動	通年		
「新型コロナ・ショックに備えて最強のチームを作ろう」	～Vol.13 ディグニティセラピーと現場の私たち (その 2) 過去の自分を取り戻す	2021/4/20		100

	～Vol.14 ディグニティセラピーと現場の私たち（その3）大切な人の未来に向けたメッセージ	2021/5/18		92
	～Vol.15 なぜ、いのちの限られた人に 時間とエネルギーを注ぐのですか？～	2021/6/15		80
	～Vol.16 グリーフ①なぜ大切な人を失うと悲しくなるのでしょうか？	2021/7/20		120
	～Vol.17 グリーフ②	2021/8/17		84
	～Vol.18 グリーフ③悲しみとともに生きていく～	2021/9/21		80
	～Vol.19 小さな力を大きな力に変えるためには？～	2021/10/19		55
	～Vol.20 ACP とジレンマ（選択する難しさの支援について）～	2021/11/16		66
	～Vol.21 もしあと1年で人生が終わるとしたら？～	2021/12/21		51
	～Vol.22 スピリチュアル・ケア①～	2022/1/18		55
	～Vol.23 スピリチュアル・ケア②スピリチュアル・ペインについて～	2022/2/15		76
	～Vol.24 スピリチュアル・ケア③～	2022/3/15		58
その他イベント	苦しむ人の力になりたいというキャリア選択～若手と経験者の交流会	2022/5/28	オンライン	53
	地域共生社会・社会的孤立解消にむけて夢を広げるプレゼン大会	2022/7/3		131
	コロナ禍のいま、子どもも大人もエネルギーをためるには？	2021/9/20		70
	JAMMIN コラボ-Day1-夢をつなぐ、思いをつなぐ	2021/10/18		136
	JAMMIN コラボ-Day3-つながりの先にあるもの	2021/10/20		72
	JAMMIN コラボ Day4-JWLI 私が決める、私が選ぶ	2021/10/21		50
	JAMMIN コラボ-Day5-子供たちと描く将来の夢	2021/10/22		41
	JAMMIN コラボ-Day6-いのちの授業オンライン	2021/10/23		95
	JAMMIN コラボ-Day7-FT 向け	2021/10/24		58
(6)【日本財団助成事業】在宅看取り向上のための体制づくり～地域全体がつながり、人生の最期まで心豊かに暮らせる地域づくり 地域福祉・医療介護が共通言語をもって連携しコミュニティのレジリエンスを強めるには～				
事業1： 在宅看取り体制の構築	a. 在宅看取りを支える連絡体制づくり(唐津市：防災組織等との定例学習会)	2021/4-2022/3	唐津市役所等	68
	a. 在宅看取りを支える連絡体制づくり(米子市：地域福祉計画と連携した担い手育成) ・民生委員・介護支援専門員等の連絡会議	2021/11/10, 24, 25	福米地区公民館等	60
	・ふくよね在宅ケア連携の会にてワークショップ	2021/12/1		40
	・次世代の人材育成・人材交流：鳥取大学医学部生の企	2022/2/25	オンライン	35

	画によるオンライン学習会			
事業2： 看取り研修の実施	a. 介護現場における看取りの質向上を目的とした研修 (唐津市)	2021/5-2022/3	特別養護老人ホーム(6か所)	432
	b. 病院や地域医療に携わる医療・介護従事者への看取り研修(唐津市)	2021/6-2022/3	唐津赤十字病院/オンライン	67
	a. (施設・自宅) 看取りに関わる介護職等へのACP研修(米子市)	2022/1/23, 2/6	オンライン	80
	b. 病院や地域医療に携わる医療・介護従事者への看取り研修(米子市)	2022/2/26-27	オンライン	40
事業3： 住民との対話の場づくり	住民との対話の場づくり(唐津市)	2021/5-2021/11	浜玉公民館等	111
事業4： 成果報告会事業	日本財団成果報告会	2022/3/6	オンライン	49
	医療・介護・福祉関係の専門職および住民の方々へのヒアリング調査	2021/6-2021/11	-	22
	老人福祉施設へのアンケート調査	2022/1-2022/2	-	-

以上